

和地ひとみレポート No.77

平成 25 年度 予算特別委員会が閉会。

新たな施策が盛り込まれた H25 年度予算は賛成多数で可決



■H25 年度予算は昨年対比で数%アップ

…2月26日から開催されているH25年東大和市議会第1回定例会も3月22日に閉会しました。その会期中に、平成25年度予算特別委員会も開催され、4月からスタートする来年度の一般会計予算、5特別会計予算（国民健康保険事業・下水道事業・土地区画整理事業・介護保険事業・後期高齢者医療）の予算案について、3日間審議し、賛成多数で可決されました。

…尾崎市長体制になって、一から組む予算としては2回目となる来年度予算は、昨年度と比較すると尾崎市長の施策の色が明確になった印象です。今までになかった新たな施策も盛り込まれたため、予算特別委員会では、既存事業のみならず新たな施策、事業についての質問が多く出ました。

…予算全体としては、一般会計が昨年より約5億5800万円増（2.1%アップ）、特別会計が約10億6900万円増（6.3%アップ）で全体としては昨年対比3.7%アップの予算となりました。また、予算編成の主な取り組みとしては、歳入確保のために未利用地の売却により約6400万円を確保、また人件費を約8700万円削減するなどなされています。（詳細は市報で確認できます。このレポートの裏面には一般会計概要を掲載）

■予算額はもとより、その使われ方に質問

…来年度の優先施策の中で、多くの議員から質問、要望が出たのが『日本初女子フルマラソン開催地記念事業費約518万円』について。東大和市を代表する多摩湖の自然のピーアールを後押しし、市を広く知ってもらいたいという趣旨の事業で、全てを一般財源（市独自の財源）から支出して行う初の事業ですが、その将来の展開や効果的な進め方などについては内容が不明瞭です。

…和地ひとみも「そもそも、何故、その予算額になったのか」「その日本初の大会の主催者は誰なのか、また、1回で大会は終わってしまったのか」などの質問をしました。この大会は昭和53年に財団法人タートル協会（高齢者の健康維持などを目的にマラソン大会などを主催。現在も協会は活動を続けている）が開催したもので、第2回などの大会は開催されていないとのこと。また、予算額については、ブロンズ像の大きさ、台座となる石の大きさなどから決めたとの答弁でした。

…全国で何かを記念してモニュメントを建立する際、その趣旨に賛同した個人から寄付を募る例は多くあります。今回も市の予算を使い、市主導で行うと、住民の参加意識も高めることができただけでなく、そもそもの趣旨の市をピーアールするという目的を達成すること

も困難になります。そこで和地ひとみは

「まず、主催者であるタートル協会にも協力を依頼してはどうか。また、企業や個人からも寄付を集めるなどして、市の一般財源からの支出を抑えつつ、この事業を広く知ってもらう取組みをする予定はないのか」と確認しました。その答弁では「多摩湖駅伝でも多くの企業協賛金をいただいていることもあり、これ以上の呼びかけは考えていない」とのことでしたので「この記念事業は『東大和市初』ということではなく『日本初』というもの。市内だけを対象と考えず、全国的にもマラソンがブームになっている背景もあるのだから、日本全国のマラソン愛好家の方に事業を知っていただき、寄付を募ることも検討するように」要望を出しました。

■「あれかこれか」の視点で更なる工夫を

…様々な審議が行われるとともに要望も多く出た今回の予算特別委員会。特に、事業の取組み方についての工夫の再考への要望が多く出ました。最終的には賛成多数で予算は可決となり、和地ひとみの所属する会派民主党からも以下の討論を賛成の立場で行いました。

【民主党会派の討論内容】

我が国の経済に、わずかながら明るい光が差してきたとはいえ、地方自治体や一般家庭の家計にまで、その恩恵が浸透するには、まだ、相当なタイムラグがあると考えられます。そのような状況の中、持続可能な市政の達成には、まだ相当のハードルがあるようです。

しかしながら、今回提案された予算には、公共施設のあり方の検討や給食センターの建て替えの着手など、持続可能な市政の実現に向けての模索が認められます。また、タウンミーティングを積極的に行うなど、説明責任を全うしようとする姿勢は大いに評価できるものです。そのほか、細かく申し上げれば、古紙の持ち去り防止策の実施、シルバー交番の設置やヒブワクチンなどの予防接種の継続実施、そして、消防団員の報酬の増額なども評価するものです。

ただし、一方で、日本初女子フルマラソン開催地記念事業に関しては、その趣旨には賛同するものの、企業の協賛金のみならず、先の代表質問でも申し上げたとおり、基金などを設けて一般の寄付を募るなど、市の一般財源の投入を減らす工夫を進めること、議会本会議のインターネット配信に関しては、映像を含めたフル配信を早期に実現すること、予防接種に関しては、小児や高齢者に有効とされる任意接種のものにも範囲を広げること、消防団員の処遇改善に関しては、更なる報酬の増額と装備の充実・近代化を進めること、そして、昨年も申し上げましたが「あれかこれか」の視点をもっと推し進めること、更なる歳入の確保や徴税努力による収納率の向上、個人並びに世代間の不公平感を助長するような施策の再考を求め、討論と致します。